

5 . 家庭における 9 つの対策技術

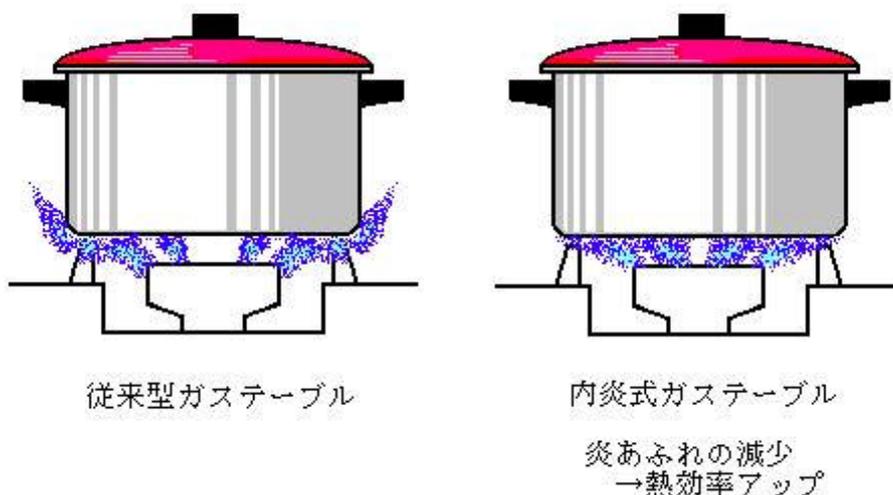
番号	対 策 技 術	追加的削減量 (千トﾝCO2)	解説
1	内炎式ガステーブルの普及	780	
2	待機電力の節電	7,900	
3	サマータイムの導入	1,100	
4	家庭用潜熱回収型給湯器の普及	2,100	
5	家庭用燃料電池コージェネレーションの普及	1,300	
6	太陽熱温水器の普及	2,400	
7	パッシブソーラーハウスの普及	2,000	
8	太陽光発電の普及	1,600	
9	家庭用ヒートポンプの普及	1,300	

内炎式ガステーブルの普及（No.1）

1）技術の概要

炎口をバーナー内部に設けることにより、火炎が外向きに広がらず、熱効率が18%向上するとともに、安全性が高くなる。

内炎式ガステーブル



2）2010年における導入量（想定）

4,680万世帯のうち65%の世帯に普及すると想定。

3）温室効果ガス排出抑制効果

780（千トンCO₂）

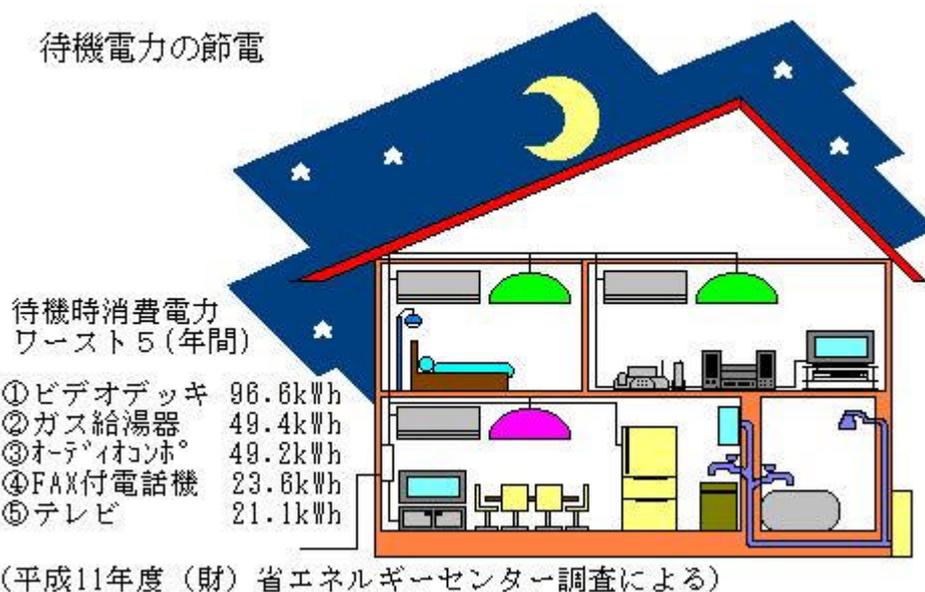
4）追加的削減費用

- 200,000（円/トンC）

待機電力の節電（No.2）

1) 技術の概要

家庭用電気製品の待機電力は現状の平均で約30Wあるが、これを大幅に削減する。



2) 2010年における導入量(想定)

電気製品の寿命が7年程度であることから、8年以内に90%の交代ができれば、全世帯で待機電力の90%を節電できると想定。

3) 温室効果ガス排出抑制効果 7,900(千トンCO₂)

4) 追加的削減費用 - 140,000(円/トンC)

サマータイムの導入 (No.3)

1) 技術の概要

夏季に時計を1時間進めることで、夕方の明るい時間が1時間長くなることによる照明需要の節約や、午前中の気温が低くなることに伴う冷房需要の低減等により省エネを図る。

サマータイムの導入



・早寝早起きで、夕方暗くなる前に退社。
夜間照明の節約になります。

2) 2010年における導入量(想定)

サマータイム制度の導入により、2,997(10⁶kWh)の電力消費の削減が起こり、生産誘発等により、原油換算で30.6万kLのエネルギー消費の増加が起こるとした。

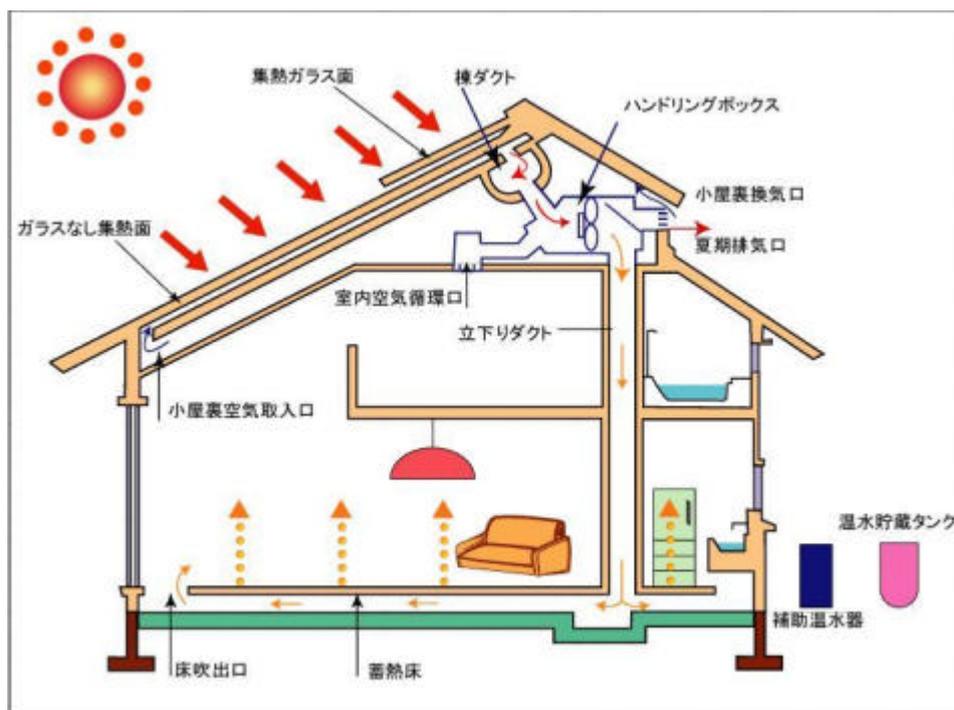
3) 温室効果ガス排出抑制効果 1,100(千トンCO₂)

4) 追加的削減費用 -140,000(円/トンC)

パッシブソーラーハウスの普及 (No.7)

1) 技術の概要

屋根に取り付けた空気集熱太陽熱コレクタで高温の空気を取り入れ、冬は床下へ送り込み暖房用に利用し、春から秋には熱交換により温水を供給する。



2) 2010年における導入量(想定)

全世帯4,680万戸の5%(234万戸)に普及すると想定。

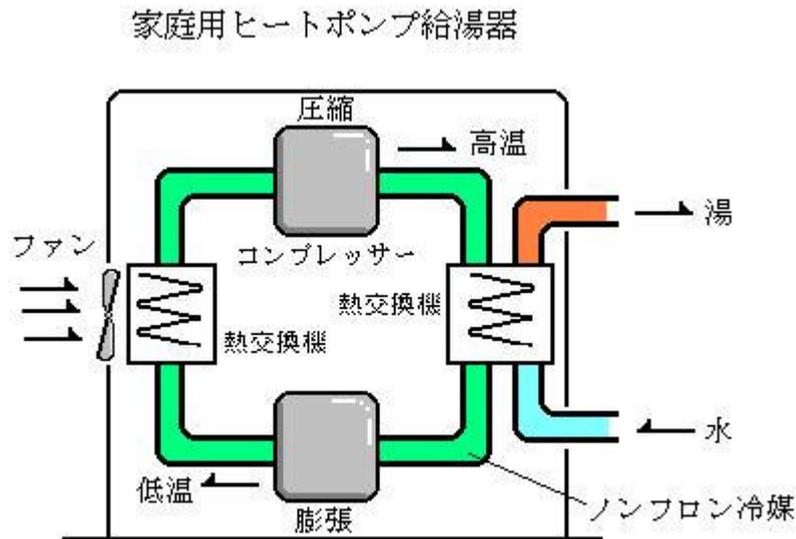
3) 温室効果ガス排出抑制効果 2,000(千トンCO₂)

4) 追加的削減費用 110,000(円/トンC)

家庭用ヒートポンプの普及 (No.8)

1) 技術の概要

CO₂冷媒を使用するヒートポンプで、夜間電力により温水を作り、タンクに蓄熱して給湯を行う。



コンプレッサーの電力+ファンの電力 \div 1/3電熱湯沸の電力

2) 2010年における導入量(想定)

ガス給湯器を代替することにより、全世帯4,680万戸の10%(468万戸)に普及する想定。

3) 温室効果ガス排出抑制効果 1,300(千トンCO₂)

4) 追加的削減費用 300,000(円/トンC)